

誰もが抱える悩みを。ハッと解決！



早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田 貴一

福田貴一先生の 福が来るアドバイス

子どもの視野を広げ、多角的な視点を育む

小学生の視野は広くない

中学受験に向けた学習を進めていくうえで、保護者の皆様にご留意いただきたいポイントの一つに、「子どもの精神的な成長段階を考慮して接する」という点があります。まだまだ成長の過程にある小学生には、大人の感覚とは違う部分が多くありますし、日々大きく変化していくものです。そういった子どもの状態をきちんと把握して接することが大切です。

当たり前のことですが、大人と比較した場合、小学生の視野は決して広くありません。例えば「計画性」という点においては、1週間先のことすらはつきりと把握できていないのが普通です。皆様のなかにも、「8月の終わりになってから、あわてて夏休みの宿題に取り組んだ」と

てくる部分です。

理科・社会も同様で、「全体」を把握してから「細部」の学習に進むことが大切です。以前、歴史が苦手な生徒がいました。毎週、テキストに出てくる人名や年号をがんばって覚えてきていたのですが、テストではなかなか点数につながらません。歴史の学習方法についてアドバイスをするための面談で、「平安時代の前は何時代？」と聞いてみたところ、首をかしげてしまいました。大きな時代の流れをつかんでいなかったため、覚えた細かな知識がきちんと定着しておらず、使いこなせるところまでに至っていませんでした。地理でも同じことが言えるでしょう。日本地図が頭の中に入っていないければ、山脈や川の名前などの知識はなかなか定着しないものです。

家庭学習でも

「視野を広げる」ことを意識する

保護者の皆様がお子様でお客様の学習をご覧になるときに、この「広く全体を見る、把握する」というポイントを意識していただくのがよいでしょう。お子様が間違えたとき、時間内に解き切れなかったときなどには、この点でつまづいているかもしれません。

もちろん、逆に単なるミスで間違えてしまっていることもあります。計算ミスなどの単純なミスで失点してしまうのは、非常にもったいないことです。しかし、その点だけをあまり注

小学生の段階で、「視野を広げる」「多角的な視点を育む」ことに取り組みたいものです。これからの多様性に溢れた社会で、さまざまな問題を解決しながら生きていくためには、より広い視野で多くの要素を考慮しながら判断することが求められるからです。また、中学受験に向けた科目学習においても、広い視野は重要なポイントになります。今回は「視野を広げることの大切さ」について考えます。

いう経験がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。これも、小学生の視野では40日という期間を先まで見通すことができます。2学期の始業式直前になってやっと期限が迫っていることを認識した、という状態といえます。

中学受験に向けた学習を通じて「視野を広げていく」ことは、精神的な成長を促すことにもつながり、結果として成績にも大きく影響が出てきます。

全体を把握する力

「広い視野」は科目学習においても大切なことですが、逆の言い方をすれば、学習を進める過程で次第に身に付いていくものでもありません。

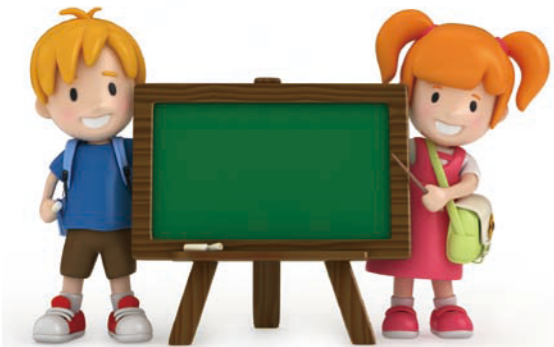
私はよく、「全体を見なさい」とか「全体像

意してしまうと、お子様の視野が狭くなってしまいう可能性も出てきます。計算ミスをしないようにと気にすることで、そこにばかり集中してしまい、大きな視野でとらえることができなくなってしまうわけです。お子様のタイプにもよるのですが、私は小学4年生くらいまでは、細かいミスはそれほど気にしないでください、と申し上げています。

視点を切り替えて考える

視野を広く持てるようになると、視点を切り替えることができるようになります。

難関中学で出題される入試問題の場合、解答に結び付く「切り口」をしっかりと考える必要があります。どの方向で考えていけばよいのか、どのような図を書けばよいのか、をまず考えるから解き始めるわけです。しかし、合否を左右するような（その問題を解けた生徒が合格に近付くような）問題の場合、その「切り口」にたどり着くのは簡単ではありません。

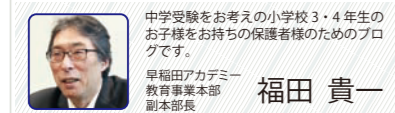


をとらえて考えなさい」と生徒を指導します。広い視野を持つということは、「全体をとらえる意識を持つ」ことから始まるともいえます。例えば国語では、文章の全体が見えていないと要旨や主題といった問題には対応できません。説明文で文章の初めに出てきた具体例に気を取られて、テーマや結論の部分を読み違えてしまう生徒がいます。物語文でも、登場人物の背景がとらえられていないために、心情がつかみきれないことがあります。その根本的な要因は、「全体をとらえる力」が未熟だからです。

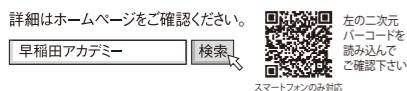
また算数でも、複雑な図形の問題などは、全体をしっかりと見なければ必要な位置に補助線をひくことができません。さらに算数の難問を解くためには、問題を見て「解答までの過程」をイメージすることが必要になってきますが、これも「全体をとらえる」という意識が影響し

一つの方法を考えてみて、それでうまくいきそうになれば新たな方向で考え直せるか、という点がとても大切になってきます。小学生にとって、この「考え直す」ということは、実は難しいものなのです。自分で考えついたことを捨てて、もう一度新しい視点で考え直すというのは、ある程度のトレーニングも必要です。精神的な成長も必要です。そしてその根底には、やはり「広く問題を見る」という視点が必要なのです。視野が広がってくれば、自分が一度持った視点を切り替えて、「考え直す」こともできるようになってくるはずですよ。

中学受験に向けた学習で培った「多角的な視点」は、入試を乗り越えた先の学習にも、さらには将来社会で活躍するときにも、必ず生きるものだと考えています。



中学受験に関するブログを公開しています。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。



左の二次元バーコードを読み込んでご確認ください
早稲田アカデミー 検索